

＜第13回：「子どもの貧困」シンポジウム＞ 開催要綱

こどもたちの「声なき声」を“おとな”は聴くことができるのか？  
～おとなの役割&社会のあり方とは？～

1. 趣旨

今、日本社会ではこどもたちの「助けを求める声」が聞こえにくくなっていないだろうか？こどもは、元々「助けて」と言えなかったわけではない。小さな声で、様々なサイン（時には「問題行動」の形も含めて）を示して「助けて」と訴えてきたけれども、おとなたちに受けとめてもらえず、あるいは勇気をもって助けを求めたものの裏切られ傷つけられた体験をしたりすると、こどもは口を開かなくなってしまう。その背景には、こどもの「声」を封じ込めているおとなの存在や社会のあり様があるのではないだろうか!?

こどもの「声」を聴くとは、こどもの「意見」を聴くことでもある。意見とは「view」であり、言語による意見に限らない。思い、悩み、不安、興味、希望、夢などの“ひとりの人間としての内面すべてを含んだもの”である。また、こどもの「意見表明権（聴かれる権利）」を尊重するということは、まさに自分の人生を周りのおとなによって勝手に決められたという思いを抱くことなく、こどもが自分の人生を自分で選択して歩むことができるために必要不可欠なものである。

本シンポジウムでは、上記の問題意識に基づき、こどもたちの「声」が封じ込められている現実をとりあげ、その現実が孕む問題について考え、私たちおとなの目には見えない世界に“沈んでいく”こどもたちの心象風景を「想像」することを通して、私たち“おとな”に出来ること、及び必要とされている支援のあり方について、皆さんと共に考えてみたい。

2. 開催日時 2026年3月1日（日曜日）12:00～17:00

3. 開催スタイル オンライン（zoom）開催

4. 参加者対象者 国・県・市町村行政職員、こども家庭福祉従事者、教育・福祉・心理・医療・保健・司法などの領域の支援者、学校教職員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、市民、「こどもの意見表明権」などのこどもを巡る社会問題にご関心のある方、など。

5. 定員 300名

6. 参加費 無料

7. 主催 独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぷん・どあ  
共催 一般社団法人てのひら  
一般社団法人静岡県社会福祉士会 こども家庭福祉委員会

8. お詫び

新型コロナ禍が収束している状況を踏まえ、対面にて開催したいのですが、更なる配慮をすると共に、より多くの方々との出会いと学びの場をもてたらと願い、今回もオンラインにて開催することにしました。ご参加をお待ちしております。

## 9. シンポジウム内容（3部構成）

11:45—12:00 入室受付

12:00—12:05 開会のご挨拶

### 【第1部】

12:05—13:35 【基調講演】

テーマ：「こどもの意見表明権を尊重するために必要なこと

～こどもを取り巻く現状&おとな（社会）の役割～」

講師：山屋 春恵さん（常葉大学保育学部保育学科 准教授 保育学科長）

13:35—13:45 休憩

### 【第2部】

13:45—14:10 【実践報告】

テーマ：「こどもの『声』に導かれて～今までの実践&今後の課題～」

講師：杉村佳代子

（社会福祉士

子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぷん・どあ スタッフ

一般社団法人てのひら 副代表 事務局長 統括マネージャー）

14:10—14:40 【子どもサポーターからのナラティブ～「てのひらと私」～】

中端 朔良さん（静岡英和学院大学 人間社会学部 コミュニティ福祉学科  
4年）

穂坂 真生さん（静岡大学 人文社会科学部 社会学科 4年）

吉田あゆかさん（公立小学校 教員）

〈コーディネーター〉

屋部 真央 （一般社団法人てのひら 相談支援員 コーディネーター）

14:40—14:50 休憩

### 【第3部】

14:50—16:55 【パネルディスカッション】

14:50—14:55 趣旨、進行のご説明、ご登壇者のご紹介

14:55—15:55 パネリストからのご発言（3名×20分）

15:55—16:55 ディスカッション

テーマ：「こどもたちの「声なき声」を“おとな”は聴くことができるのか？

～おとなの役割&社会のあり方とは？～」

〈パネリスト〉（ご発言順）

渥美 郁子さん（公立こども園 園長）

市川 成章さん（公立小学校 教員／自主夜間中学 ボランティア／CFSの会）

深澤 美里さん（静岡県立こども病院 PSW）

〈助言者〉

山屋 春恵さん（基調講演者）

〈コーディネーター〉

川口正義（認定社会福祉士／独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室

寺子屋お～ぷん・どあ 共同代表／一般社団法人てのひら 代表理事）

16:55—17:00 閉会のご挨拶

10. お申込み先

以下のURLあるいはQRコードよりお申込みください。

<https://kokc.jp/e/terakoya35/>



11. お申込み締め切り：2026年2月27日（金曜日）

12. 個人情報の取り扱いについて

本シンポジウム申込者の個人情報は、本シンポジウムの運営、及び今後のシンポジウム等のご案内、ネットワーク作りに係る目的のみに使用し、他の目的で使用することはありません。

13. お問い合わせ先

独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室 寺子屋お〜ぷん・どあ

[terakoya.open.door@gmail.com](mailto:terakoya.open.door@gmail.com)

## 【Profile】

### 【基調講演者・助言者】

#### 山屋 春恵（やまや はるえ）さん

小学校教諭時代に子どもの福祉的課題に直面し、社会福祉の道へ。静岡県女性相談センター女性相談員、秋草学園短期大学専任講師、文部科学省教科書調査官（福祉科担当）等を経て、2018年度より現職。

専門は子ども家庭福祉。主に社会的養護における子どもの権利擁護やアドボカシーを研究の柱とし、特に子どもが自身の生活に影響を及ぼす決定に対して主体的に関与する「参加する権利」の保障を追究している。

現在は、保育者養成に携わりながら、神奈川県の子どもの意見表明等支援事業における意見表明等支援員およびスーパーバイザーなどを務め、施設訪問等を通して子どもたちの声に直接触れている。一人ひとりの子どもが権利の主体として尊重される環境づくりのために、大人に何ができるのかを模索し続けている。社会福祉士。



## 【独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぷん・どあ】

### ◆1989 年開設

- ・児童養護施設勤務時に「家庭崩壊」によって傷ついた数多くの子どもと保護者と出会う中で、さまざまな事情で家族が機能不全に陥り、子どもが心的外傷体験を被り、家庭が崩壊へと至る前に、地域の中で子どもと家族を支援する活動の必要性を痛感し、川口が児童養護施設時代の同僚であったパートナー（妻）と共に、開設。
- ・1997 年より独立型社会福祉士事務所を中核とするスタイルにて活動を展開。
- ・地域のなかでの「予防的・長期的・包括的な子ども家庭支援」体制の構築に取り組んでいる。
- ・教育福祉相談活動、個別訪問活動（アウトリーチ）、レストホーム（緊急一時保護）活動、地域生活支援ネットワーク活動、広報・啓発・研修活動、ソーシャルアクション、等。

2012 年：『子ども・若者・女性の貧困』対策 & 『家族の機能不全化・貧困の世代間連鎖』予防事業」開始

2015 年：相談室を母体として「一般社団法人てのひら」設立

2017 年：最貧困女子等、居場所を喪失した若者（少女）のためのシェルター「レスト&ステップホ～ム ヘポの家」事業開始

2018 年：15 才以降の子ども・若者のための居場所「子ども・若者スペース ダレンの家」事業開始

2019 年：居場所を喪失した若者（男子）のためのシェルター事業開始（～2021 年）

2019 年：メンタルフレンド派遣事業開始

2020 年：機能不全家庭の子どものための「ショートスティホ～ム ぽむの家」事業開始

2021 年：社会的養護サービス体験者、ヤングケアラー、社会的逸脱行動等をする若年女子のための居場所「とらすとホ～ム アシロスの家」事業開始

2021 年：困難な生育史を有する若年シングルマザーのための「Mom レスパイトサービス リフレッシュ・ママの家」事業開始

2024 年：若年女性のための「ショートスティ&シェアホ～ム ともとの家」事業開始

## 【一般社団法人 てのひら】

### ◆2015 年設立

#### 【目的】

1. こども、若者たちが「希望」と「信頼」及び「この世は生きるに値する」との思いを抱くことができるための「安心・安全な関係と場」（居場所）の提供
2. 徹底したアウトリーチによるこども・保護者・家族に対する日常生活支援を通しての“家族を丸ごと支える”ための「予防的・長期的・包括的支援」体制作り
3. フォーマル及びインフォーマルな社会資源の活用によるソーシャルサポート・ネットワーク作り、及び「多職種協働・多機関連携」によるこども家庭支援体制の構築
4. アドボカシー、ソーシャルアクションによる社会資源の再資源化と創出

#### 【事業内容】

1. 静岡市委託事業
  - ・静岡市生活困窮世帯、ひとり親家庭等の子どもへの学習支援及び生活支援業務
  - ・静岡市生活困窮者子どもの学習意欲向上事業
2. 「独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぷん・どあ」との連携事業（上記）
3. 生活支援、学習支援、保護者・家族への日常生活支援、保護者・家族の参画活動、緊急一時保護活動、支援者・市民向け啓発活動、地域生活支援ネットワーク活動、ボランティア&スタッフ育成活動、等